

令和 7 年度第 1 回焼津市多文化共生推進協議会 議事録

日時	令和 7 年 8 月 18 日（月）午前 10 時 30 分から 11 時 30 分
場所	焼津市役所 1 階 会議室 1 A
出席委員 (9 名)	高畑幸会長、小林伸生委員、鈴木和子委員、伊藤恒章委員、増井喬生委員、大石哲也委員、タンプス・ルイス・エヴェリ・トリオン委員、藤枝・エレナ・栄子委員、楊鉄偉委員
事務局 (5 名)	青木部長、齊藤課長、鈴木係長、奥川主事、橋ヶ谷事務員
欠席委員 (2 名)	小林ミーハン委員、平野一恵委員

会議内容

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市民環境部長挨拶
- 4 委員及び事務局の自己紹介
- 5 正副会長の選出
- 6 会長挨拶
- 7 協議事項
 - (1) 焼津市多文化共生推進計画進捗状況報告
 - (2) 令和 7 年度の主な取り組み
 - (3) 意見交換
- 8 多文化共生についての講話（高畑委員）

「静岡県内の多文化共生の動き」
- 9 その他
- 10 閉会

配付資料

- ・ 次第
- ・ 焼津市多文化共生推進協議会委員名簿
- ・ 焼津市多文化共生推進計画施策推進状況報告（事前配付）
- ・ 主な取り組みの紹介
- ・ 高畑委員講話資「静岡県内の多文化共生の動き」

会議概要

1 開会（事務局）

欠席者は2名（小林ミーハン委員、平野・一恵委員）

2 委嘱状交付式

委員を委嘱された方への委嘱状交付

3 市民環境部長挨拶

4 委員及び事務局の自己紹介

5 正副会長の選出

委員互選により、会長に高畑委員、副会長に鈴木委員が選出された。

6 会長挨拶

7 協議事項

（1）焼津市多文化共生推進計画進捗状況報告

（2）令和7年度の主な取り組み

（3）意見交換

【小林伸生委員】

・今年度の進路ガイダンスは高校生や大学生に話をしてもらい、小中学生や保護者が話を聞いた。毎年高校生や大学生が自分の経験を生かして、頑張って勉強することが将来に繋がる、アルバイトをする時は日本の文化に沿ってやるとよい、といったお話をしてくれている。学校教育課としては、できることとして、各校長さんへ紹介をしたり、外国につながるこども達の支援員が学校に行く時に声をかけたりしているが、なかなかこのガイダンスの良さが伝わらずに参加しない方もいらっしゃるので、引き続き続けていって、たくさんの方に参加してもらえたら良いなと思っている。

・今説明があった「はじめての日本語教室」の感想みたいな話になるが、日本語サポーターを64人集められたのがすごいなど。こうして関心を持ってくれる方がたくさんいて、サポートしてくれる方がこれだけいらっしゃるのすごい良いことだと思ったのと、声掛けも大変だっただろうなと思ったりもした。なんで気になったかというと、今年度現在420人位の外国につながるこども達が小中学校にいたのだが、その子たちを支援するにあたっては、学校の職員だけだととても手が回らない。ここでいうサポーター、支援員の方々は学校に入ってもらって支援してもらう重要な人材なので、この日本語教室のサポーターも、平日なのでなかなか難しいと思うけれど、機会があったら、お声かけさせていただけたらと思った。

【高畑会長】

「はじめての日本語教室」がたくさんの日本語サポーターの方の協力によってこれから始まるということでした。日本語教室の流れで、カラーリングも行ったのではなかった

か。どういう雰囲気だったか教えてください。

【伊藤委員】

私は一昨年参加したのですが、外国の方と知り合って、外国の方はどういう風に考えているのか興味があったので、それが分かって非常に良かった。カローリングはコミュニケーションが大事なので、カローリングを通してもっと親しくなれるんじゃないかということで、私が提案して2年連続でやっている。だいたい60名位の外国人と日本人とでやっている。はじめての日本語教室に参加したことで、外国人と日本人とで一緒にやっている活動、そういう新たな交流の活動を始めた。

【楊委員】

「はあとふる Yaizu」のことについて、私は最初の頃から参加しているが、当初は参加者が結構多くて、だんだん人数が減っているようだ。どのように焼津市の外国人には案内しているのか。私が知っているのは、ミャンマー人が来て5,6年経ったところで、イベントのことを各会社さんに案内して、生活指導として会場に連れていってくださいと、ちゃんと協力してくださいと、その時は何十人か行った。その翌年度は言わなかったので、協力してくれなくて行く人はいなかった。先ほどの取組の中で、特定技能の協力確認書、これは今年の4月1日から、入管の新しい政策で、市に協力確認書を出さないといけなくなった。これから市の活動、はあとふる Yaizu とか日本語教室とか、市から各社に協力をお願いしますということでやったらよいと思う。あと、10年前位に歌コンテストをやった。私も参加して、すごく面白くてたくさんの人が出た。団体を呼ぼうということもいいが、個人に参加してもらうことも良いと思う。

【鈴木副会長】

今私がやっている日本語教室には、フィリピン、インドネシア、ブラジル、コロンビアなど、大体12カ国位の人が勉強している。私はその人たちに、仕事を一生懸命やって疲れてここに来るのだから、楽しくおしゃべりすればよいと言っている。小さい子を連れてくるお母さんもいるが、そうすると1年で他の子と同じように喋るようになる。学校でテストをやるようなやり方でなく、隣の人とたくさん喋ってもらって、焼津のこと、日本のことを分かってもらう。それで自分が住みやすく、生活できるようになるのが一番。私も30年位やっているが、続く限りやりたいと思っている。

【高畑会長】

話は変わって、鈴木さんみたいに、近所の人と話してくださいということがすごく大事だと思うが、タンプスさんに聞きたいのですが、田尻団地にも外国人がたくさん住んでいると思うけど、団地の中で外国人と日本人の住民の方が一緒に話し合ったりするようなことはあるか。

【タンプス委員】

あまりない。仕事が忙しくて、フィリピン人だけで話している。私は近所の人と毎日話

しているけど、生活のことをいろいろ教えてくれてありがたい。でも他のフィリピン人は、日本語があまりしゃべれないので、日本人とあまりしゃべれない。仲は良いけど普通の会話。今赤ちゃんが小さい人もいるので、仕事も行っていないくて、ずっとアパートにいて、他の人と話をしていない人も多い。

【高畑会長】

まだ子供が小さい赤ちゃんがいるお家は、結構お母さんも家にいたりするから、そういう人たちが、ちょっと近所の人と話せるような場所とか、子供について相談できるような場所があったら良いかもしれない。藤枝さんも今回初めてだが、子どものいる家庭とか、税金のことについてどうか。

【藤枝委員】

何で払わなければいけないのか説明する必要がある。なぜ日本で安心して暮らせるのか、道が綺麗とか、手当が多いということとも繋がっている。頑張って働いて、残業してもほとんど税金だという人もいる。でも日本はこういう仕組みで、ブラジルとは納付の仕方が違う。市県民税のようなものもないので、何でという人もいる。また、60歳とか65歳とかまだ現役で全然働ける人もいるが、社会として受け入れられないとか、雇用してもらえない、年金はもらえるけどまだ働きたいという気持ちの人はいる。年齢関係で採用してもらえない人もいるので、それをどうしたらよいか。60過ぎでも働きたい人が、働きやすいような仕事があると良い。他の県では、学校を巡回して外国の子どもをフォローする巡回相談員がいるところもあるようなので、経験を生かしてそういう専門的な仕事も良いのではないかと思った。

【大石委員】

日本人も同じような感じで、もう60、70でも働いていて全然不思議ではない。外国人の方がハローワークにどの位来ているのか、今年度の7月までで調べてきたけど、10%いかない位の感じ。ハローワークの紹介は直接雇用がほとんどなので、外国人の方は日本語能力がないと、年齢に限らず紹介が難しい。今は人手不足で、ハローワークというよりも、派遣会社で就職しているというケースが最近多いと思う。派遣会社では、年齢が高くても、60歳代でも働かれているというのはよく聞く。

【高畑会長】

ハローワークは直接雇用の企業の紹介だから、どうしても日本語能力が高い人が優先的になるということになる。一方で、ブラジル人とかフィリピン人で日本に長く住んでいた人が50代とか60代になる人も結構出てきている。外国人も高齢化が徐々に進んでいるということかと思う。

【大石委員】

今日いただいた資料とか拝見させてもらって、多言語化対応をするとか、あるいは相談窓口を設置するとか、あと教育段階のもの、切れ目ない感じでいろいろやられているよう

な印象を受けている。細かい施策的なところで、日本語教室であったりとか、現場的なところも、すごく充実してるんじゃないかと思っている。やっぱり実際に参加される現場の皆さんが一番よく分かっているところがあるかなと思うので、こういったところから出た意見とか、そういったものが市で不足しているようであれば課題として捉えて、対応していくことで外国につながる皆さんも生活しやすくなっていくのではないかな。会議所として何かできるかというところで、商工観光課や県を通じながら一応情報をいただいているので、ホームページやフェイスブックとかそういったところでの情報発信、あるいは会議での発信など、お手伝いができるのではないかな。最近は、企業側から外国につながる皆さんを雇う時に助成金はないかという問い合わせをいただいたりするケースがある。その際は、ハローワークの助成金担当と連携して、事業を訪問してもらったり、そういった繋がりは出来ている。

【高畑会長】

昨年度の取組、今年度の取組を聞いて、言葉の壁ということが何回も出てきて、これは本当に昔からのテーマだと思うが、なかなか低くするのは難しい。ただ、低くする方法は、以前だったら自分で習得するとかだったのが、最近は自動翻訳とか、グーグルレンズとか外国の方も使っているんで、スマホでかざして言語翻訳ができる。あと、漫画とかも結構いいのではないかなと思っていて、言葉で全部を伝えようとするのと、やっぱり受け取る方もかなりの労力が必要なので、それを漫画にして、要するにポイントだけを伝えるとか、いろいろな方法があると思う。日本語は文字が難しい言語なので、いろいろな方法を使って言語の壁を低くできるんじゃないかなと思う。外国の方はスマホでだいぶ読めるようになっているので、日本語ネイティブの方がスマホで読む体験をするとか、やさしい日本語というのは、日本語ネイティブの方が日本語を簡単にして外国人にアプローチするというやり方だけど、その反対に、外国語ネイティブの方が何らかの方法、スマホとかその他の道具を使って日本語を理解できるような体験をする機会もあったらいいんじゃないかなと思った。

8 多文化共生についての講話（高畑委員）「静岡県内の多文化共生の動き」

・この間の参議院選挙では外国人というのが一つの大きな関心事になった。いろいろな意見もあると思うし、また、いろいろなことを知らないのに批判したり印象論で語ったりするという人も多いと思うが、事実として、焼津市においても日本全体においても外国の方が本当に増えているので、多文化共生というのがごく普通に行政の仕事の一部になっていると思う。こうした動きを地道に取り組んでいくのがすごい大事だと思っている。静岡県内では多文化共生に関してわりと先進的な取組が進んでいるので、現在進行中のことをお知らせしたいと思う。

・県内で多文化共生に関する基礎調査というのが昨年行われて、日本人で地域に住む外国

人に対して親しみを感じる人が増えている。いろいろな解釈があると思うが、外国人と接触する機会が増えて、正当に扱われるべきなのに、なんで差別されているんだろうというふうに考え、何か問題意識を持つ人が増えたんじゃないかと思う。労働とか、生活とかその他で何か差別されているという事実がたくさんあっても、認識する人が少ないという状態もある。それが、認識する人、問題だと思う人が増えたというのが現在地じゃないかと思う。

- ・県の相談センターへの相談件数も増えている。焼津市においても、かつてはブラジル人、フィリピン人が多かったのが、今は、ミャンマー、タイ、ネパールとか、いろいろな国から来た人たちが増えている。

- ・今年度の静岡県の動きとしては、インターカルチュラルというキーワードが出てきた。インターというのは間、カルチャーというのは文化。だから文化と文化の間という意味。この理念を多文化共生推進計画に入れていくということになっていて、インターカルチュラルシティネットワークに静岡県が今年入るということを今進めている。県の職員が今年オーストラリアに視察も行っていて、加盟する方向で動いている。このネットワークはヨーロッパ中心のグループで日本でこれに入っている都市は浜松市だけ。ヨーロッパを中心に約 160 の都市が加入していて、外国人などの文化的多様性、ダイバーシティを都市の活力や成長の原動力にするという考え。加盟すると、専門家による世界基準での政策の評価を受けたり、他の都市の先進的な取組を知って実践する機会が増える。静岡県の多文化共生をさらに一歩進めるという動きとして、これからこの言葉を聞く機会があると思うので、関心を持ってもらえたらと思う。

- ・今年 12 月が多文化共生月間となっていて、この 12 月に静岡県全体で多文化共生をもっと進めようというイベントが行われる。県が目指す姿として、相互理解のもとに、多様性を活力にして、誰もが輝く静岡県にしていくという方針になっている。日本一の多文化共生の県にしていこうということで動いている。

- ・去年始まった取組で、静岡県内にいて多文化共生に関わる仕事をしている方とか、行政の職員さんとか、会社の方とか、大学関係の方、国際交流協会とか、日本語支援をしている方などの緩やかな自主的な勉強会、「静岡県多文化共生ネットワーク（しずだぶ）」を始めた。県内の関係者が集まって緩やかに始めたものだが、年に 3 回オンラインで研修をやったり、年に 1 回対面で交流会をやったりしている。

9 その他

第 2 回目の協議会は 1 月 28 日（水曜日）。詳細については改めて連絡する。